

令和3年度 専門学校山梨県立農業大学校 評価シート

評価基準(達成度)		
4	適切	評価指標の8割以上達成
3	ほぼ適切	評価指標の6割以上達成
2	やや不適切	評価指標の5割以上達成
1	不適切	評価指標の達成5割未満

<p>重点目標 ○関係機関の連携強化と協働による農林大学校森林学科の円滑な開設 ○農業及び林業への就業に向けた幅広い人材の確保と育成 ○就農希望者に対する円滑な就農・定着の推進</p>
--

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価		外部評価委員会の意見・提言	
					経過・達成実績	達成度		
1	森林学科設置に向けた各種整備、及び授業連携の準備	令和4年度の農林大学校への改称と森林学科の開設に伴う、学習環境、及び授業内容の整備	<ul style="list-style-type: none"> 富士川キャンパスの学習環境の整備 長坂-富士川キャンパスの授業連携環境の整備 農林大学校への改称に伴う変更箇所の設備改修 	※) 林業振興課と連携して実施 ①森林総合研究所における富士川キャンパスの教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 森林学科教育カリキュラムの策定 教室、更衣室等の学習環境の整備 講師等の確保 ②長坂キャンパスと富士川キャンパスとの授業連携環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 共通科目の授業内容と方法の検討、充実 共通科目授業におけるリモート環境の整備 学生移動時における手段の確保 長坂教場における森林学科学生用の控室(更衣室等)の確保 ③農林大学校への改称に伴う設備改修 <ul style="list-style-type: none"> 案内標識、校名表示看板等の適正設置 指標：上記8項目の達成	①富士川キャンパスの教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 来年度の森林学科カリキュラム策定は完了 教室、更衣室等の増改築工事は完了し、電話回線工事とネット回線工事を実施 専門科目の授業のうち、県職員(専任講師及び森林総研研究員)が約55%、外部講師等が約45%で、1年生の担当講師には全て依頼済み ②授業連携環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 共通科目は既存の一般教養科目に加え、農業と林業で共通する課題を学ぶ「農林連携(鳥獣害対策、キノコ、山菜、薬草など)」を設定 リモート環境はオンライン授業に必要なインターネット回線の工事を実施 富士川キャンパスでライトエース2台を確保し学生の移動に使用 教室兼控室は別館に準備。更衣室については、研修棟に準備 ③設備改修 <ul style="list-style-type: none"> 国道や県道沿いの道路看板、及び構内の看板について改修を実施 (8項目中8項目達成：達成度4)	4	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けて、策定したカリキュラムのとおり円滑に授業が進むよう取り組むとともに、学生の理解度や技術の習熟度を見ながらカリキュラムをブラッシュアップしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科新設で林業関係者からの期待も大きい。それに応えられるよう施設の整備、講義内容の充実を図ってほしい。 新学科の開設準備に続き、開設後のリモート授業の評価方法やソフト面の検討が必要である。
2	専門学校農林大学校として幅広い人材の確保	将来の本県の農林業の担い手育成に向け、農林業を志す高校生等に対して農林大学校のPRを行い、幅広い多くの人材を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> 高校生等に対する農林大学校への理解促進 学校説明会参加者の確保 令和4年度入学生の確保 	①入学者数の確保 <ul style="list-style-type: none"> 入学志願者数 ※) 推薦入試及び一般前期入試の志願者数 <ul style="list-style-type: none"> 養成科：果樹・園芸学科 33人以上 森林学科 11人以上 専攻科： 3人以上 ※) 定員 養成科：果樹学科、園芸学科 30人 森林学科 10人 専攻科：落葉果樹学科 若干名 7) 農林大学校入学案内・ポスターの作成、配布 4) 高等学校等訪問の実施 <ul style="list-style-type: none"> 県内高校、農業関連機関などへの訪問回数 延べ100回以上 県外高校、林業関係機関・団体への訪問回数 延べ30回以上 5) ホームページ等での情報発信 <ul style="list-style-type: none"> HP、新聞、ラジオ、同窓会だよりなどに加え、新たなメディア(民間の進学情報、SNS、YouTube等)を活用し広報する。 情報発信したメディア数 5以上 森林学科紹介動画のHP掲載、高校への電子記録媒体配布 動画再生回数 1,000回以上 6) 本校における学校説明会等の開催 <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会 <ul style="list-style-type: none"> 5回(富士川キャンパス同時開催2回を含む) 延べ120人以上参加 オンラインによる説明会の実施 1回以上 高校生あぐり体験(富士川キャンパスは実習体験) <ul style="list-style-type: none"> 2回×2カ所(長坂、富士川キャンパス) 8) 高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介 <ul style="list-style-type: none"> 進路相談会への参加(オンライン含む) 6回以上 	①入学者数の確保 <ul style="list-style-type: none"> 志願者(推薦入試、一般前期入試) <ul style="list-style-type: none"> 養成科 果樹・園芸 27人 森林学科 9人 専攻科 3人 (推薦入試、一般前期入試、一般後期入試) 養成科 果樹・園芸 33人 森林学科 12人 専攻科 4人 ※合格者 養成科 果樹・園芸 33人 森林学科 10人 専攻科 4人 ※入学者 養成科 果樹・園芸 28人 森林学科 9人 専攻科 4人 7) 農林大学校入学案内・ポスターの作成、配布・・・県内46校、県外25校 4) 高等学校等訪問の実施 <ul style="list-style-type: none"> 県内高校・関係機関への訪問 延べ112回(校) 含 森林関係5校(農林、笛吹、北杜、青洲、身延、帝京第三<TEL>) 県外高校への訪問 17回(校)(東京都立青梅総合、神奈川県立吉田島、埼玉県立秩父農工科学、静岡県富士宮地区5校、長野県佐久地区3校、長野県諏訪地区6校) 林業関係機関への訪問 22回(機関)(県森林協会、県森林組合連合会、森林組合12、県森林整備生産事業協同組合、林業・木材製造業労働災害防止協会山梨県支部、県猟友会、県木材協会、県恩賜林保護組合連合会等) 5) ホームページ等での情報発信 <ul style="list-style-type: none"> 情報発信したメディア数 10(TV「前進!山梨」、県広報誌、雑誌、YouTube、Facebook、Twitter、マイナビ農業Web、森林ノート2022、林業やまなし、林業就業支援だ) 森林学科紹介動画HP掲載5/21～ 動画再生回数2047回(2/1時点) 高校へのDVD配付 県内全46校、県外25 6) 本校における学校説明会等の開催 <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会 5回(富士川キャンパス2回うち1回はコロナで中止) 参加者延べ人数 140人 高校生あぐり体験 1回(オンライン開催) 8) 高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介・・・12回実施 (10項目中8項目達成：達成度4)	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はパンフレットや入試要項の配布が遅れた。次年度は、高校の進路指導の前に、早めに入試情報等を提供するように取り組む。 本年度は新たなメディアによるPRを積極的に実施した。YouTube、Facebook、Twitterなどの効果は高いと考えられ、今後検証(アンケート等)していきたい。 志願者は、県外から9人、社会人が7人おり、今後も県内外、社会人に向けた情報発信が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 時期的に難しいかもしれないが、出願者ではなくて、合格者、入学者の記載はできないか。(※参照) 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限されるなか、SNSなど新しい方法での情報発信を工夫するなど人材の確保に努めている。 継続的な情報発信、時代にあった手法の検討が必要である。

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価		外部評価委員会の意見・提言	
					経過・達成実績	達成度		
3	農業系高校との教育交流の推進	農業系高校と農業(林)大学校との連携による専門教育を推進するとともに、教員や学生の交流を図る。	・農業系高校との連携強化 (年度計画に基づく回数等を指標)	①連携推進会議、連絡会議の開催による連携強化 ・教育交流により本校に興味を持った生徒の割合 75%以上 ・中学生へのPRパンフ作成・配布 8,000部 ・ワーキングチーム(林業系)による交流内容の検討 ワーキング会議 3回 ②本校職員による高校生に対する授業の実施 ・出前授業実施回数 15回 ・農業系高校の本校での実習 3校 ③プロジェクト発表での相互交流(WE B参加含む) ・プロジェクト発表会への高校職員・生徒の参加 20人 ④教職員・学生の交流(WE B参加含む) ・教職員の合同研修 1回 ・学生交流の実施 7回	①連携推進会議、連絡会議の開催による連携強化 ・教育交流への参加生徒280人の78.2%が本校に興味を持ったと回答 ・配布先に小学生も含め、農業に興味を持ってもらえるよう内容を改めるとともに高校3年間と農林大2年間の継続性ある専門性の高い学習ができることをPRするパンフレットを8000部作成・配布 ・ワーキングチーム(林業系)による交流内容の検討を3回実施 ※(合同での現場見学や講師による訪問指導などの方法を検討) ②本校職員による高校生に対する授業の実施 ・出前授業については、15回の計画であったが、7回の実施 ・本校での実習は、北杜高校、農林高校の2校が実施 ③新型コロナウイルス感染拡大防止により対面での交流は実施見送り ・オンラインでの交流を検討したが、相互の授業スケジュールが合わなかったため、プロジェクト発表会の録画データを提供 ④教職員・学生の交流 ・教職員の合同研修を2回実施(オンライン1回) (GAPセミナー、ICTセミナー〈オンライン〉) ・学生交流は3回実施(オンライン1回) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各校収穫祭等での交流はできなかった。オンラインなどの対応を行ったが計画回数には達しなかった。 (8項目中4項目達成:達成度2)	2	・教育交流や職員・学生の交流については、各校の状況もあり、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンラインを利用しても、日程調整ができず行えないことがあった。 ・収穫祭や学校祭などは一般の方の参加を制限して行ったため、学生・教職員の交流が難しい状況であった。	・新たに始める林業関係のワーキングでの内容を記載したほうが良い。(※参照) ・新型コロナウイルス感染症の長期化、感染症のリスクを考慮した、オンラインでの交流方法、多様な交流方法を検討してほしい。
4	実践教育の充実と学生の技能・知識の向上	実践的な教育を進め、専門学校として特色ある学校づくりを推進する。また、学生の技能・知識の向上を図り、進路決定に向け支援を充実する。	・教育内容の充実 ・実践能力の向上 ・課題解決能力の向上 ・技術・知識の向上 ・進路指導の充実	①学生の就農・農林業関連企業等への就職支援 ・学生の就農(自営+雇用就農)+JA等への就職率 50%以上(1月末まで) ②農場実習や先進農業派遣研修等の実施 ・先進農業派遣研修受入れ農家の学生に対する「よい・ふつう」の評価割合 90%以上 ③プロジェクト研究やビジネスプランの実施 ・プロジェクト研究等の発表会におけるA評価の割合 80%以上 ④企業ガイダンスの実施、就職セミナー等への参加指導、農業参入した企業の協議会(北杜市)との連携 ・学生の進路決定率 90%以上 ⑤有機農業・先端技術講座の実施 ・有機農業・6次産業化・先端技術への関心と理解が高まった学生の割合 90%以上 ⑥農業基礎技能競技会の実施、及び農業技術検定等資格取得に向けた特別講義の開催 ・免許・資格の平均取得数 4種以上 ⑦県内大学との連携による特別講義・実習の実施 ・実施校数 2校以上 ⑧農林組合や林業企業を交えたワーキングチームによる派遣実習等の内容検討 ワーキング会議 2回以上	①1月末現在の就職内定率は97%(31/32人) ・就農及び農業関係への就職率は、89% ②先進派遣研修での学生の評価 ・受け入れ農家の学生に対する「よい・ふつう」の評価割合は92% ③プロジェクト学習発表の評価は70点以上のA評価の割合は90.5% ・養成科2年生29人が21課題に取り組んだ ④学生の就職内定率は97%を達成 ・例年5月に実施していた校内の就職ガイダンスについては、昨今の就職活動早期化に対応するため、1年次の3月に実施する予定であった。また、北杜市農業企業コンソーシアムとの交流会に関しても、2月に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、中止としたため、個別相談等を適宜実施 ⑤アンケートの結果89.3%の学生が「関心と理解が高まった」と回答 ・先端技術特別講座では、県内有機栽培農家およびICTやGAPを活用した植物工場の視察を実施した。また「みどりの食料システム戦略を踏まえた持続的な食・農への取り組みについて」と題したオンライン講演会を実施 ⑥当初計画の資格試験等については、予定どおり実施し、学生の意欲も高く、1人当たり5.7個(のべ339個/59人)取得 ⑦専攻科の授業において、山梨大学及び山梨学院大学の教授等を講師に招聘し、講義を実施(2大学と連携) ⑧主要な森林組合や林業経営体、林業関係団体等と協議を2回行い、経験豊富な実習講師の派遣、木材の生産現場、木材市場、製材加工施設の視察機会の提供などについて令和4年度から開始することを決定 (8項目中7項目達成:達成度4)	4	・就職ガイダンスや北杜市農業企業コンソーシアムについては、1年次の3月に行うことが必要。また、なるべく対面での実施が望ましい。 ・林業の業界全体からのサポートをより多くするため、連携に向けた協議を継続していく必要がある。	・新型コロナウイルス感染症対策の徹底と派遣先の協力により、ほぼ計画どおり実施できたことは評価出来る。

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価		外部評価委員会の意見・提言	
					経過・達成実績	達成度 次年度の課題と改善策		
5	農業や林業に興味のある者に対する理解促進と円滑な就業・定着の推進	実践的な農業体験の場の提供と、関係機関との連携による即戦力となる人材の育成により、就業定着を進める。	・ 離転職者の農業分野への就業支援 ・ ニーズに応じた体験研修の充実 ・ 研修の充実による就業定着の促進	① 就農フェアや就業相談会等への参加 ・ 県内外の就農相談会への参加 4回以上 ・ 県内外の林業への就業相談会への参加 4回以上 ※) WEB対応を含む ② 就農トレーニング塾(週末10日コース・平日コース)の実施、職業訓練農業科(果樹・野菜・有機農業コース)の開設 ・ 就農トレーニング塾の受講者数 65名以上 ・ 就農トレーニング塾の受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上 ※) WEB対応を含む ③ 森林・林業体験ツアーとインターンシップの実施 ・ 体験ツアー等への参加希望者数 40名以上 ・ 体験ツアー等の受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上 ④ 職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた農業振興公社、農務事務所担当者との情報交換会の実施 ・ 職業訓練農業科訓練生の農業分野への就業希望率と研修継続率の合計 80%以上 ・ 訓練受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上	① 就農フェアや就業相談会等への職員の参加 ・ 就農相談会へは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため県外2回は不参加、県内1回が中止となったため、参加は1回 ※就業相談会に参加できない方に対して電話等により対応 9件(延べ10回) ・ 林業への就業相談会へは4回参加(内1回はオンライン) ② 就農トレーニング塾は、新型コロナウイルス感染拡大防止により実施を見合わせた回があった ・ 受講者数は60名 ・ アンケートは「おおむね満足」が8割以上 (内訳 日程:83%、回数:78%、内容:95%、指導方法:100%) 職業訓練農業科の開設 受講者 果樹コース32人、野菜・有機コース26人 計58人 修了者 果樹コース31人、野菜・有機コース23人 計54人 ③ 森林・林業体験ツアーとインターンシップの実施 ・ 森林・林業体験ツアー(2回、参加者28名)とインターンシップ(参加者14名)で42人が参加。体験ツアーの1回は高校生を対象とし、参加者11名中6名が森林学科を受験 ・ 体験ツアーの満足度 「おおむね満足」 97.8% ④ 職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた関係団体・関係機関担当者との情報交換会の実施 ・ 訓練生の農業分野への就業希望率と研修継続率86.2%(50人/58人) ・ 訓練受講者のアンケート結果は「おおむね満足」96.3%(52人/54人) (8項目中6項目達成:達成度3)	3	・ コロナ禍でも就農相談をオンラインなどで実施できる機会を確保する必要がある。 ・ 就農トレーニング塾は、実際に農作業を体験(講習ではない)することが大きな目的であるためweb等による代替は難しいと思われることから、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら実施していくことが必要である。 ・ 職業訓練生については、ニーズと現実を勘案しながら適切な訓練を実施し、将来の就農に向け農務事務所、就農支援センター等との連携を密にしていきたいことが必要である。	・ 電話での対応がどれだけあったかを記載すべきである。 (※参照) ・ オンライン相談をもっとしていくべき。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響下、山梨への移住と併せ、就農を志す人が増えている。 WEBでの講義、DVDの作成など本県農業への理解促進と就業意欲を高める取り組みを進めてほしい。
6	農業の発展に向けた研修の充実	農業の経営力を強化する一つの手法として、6次産業化のプロセスを座学と演習により実践力を習得する。農業者の農業機械の基本操作の習得、安全利用に関する知識を習得する。	・ 計画どおりの開催回数 ・ 各種農業機械研修の実施回数、対象目標人数	① 有機農業及び先端技術特別講座の実施 ・ 先端技術特別講座の開催 3回 ・ 有機農業等、現地研修の実施 2か所×2回 ② 農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の実施 ・ 農業機械研修の開催 9回 ・ 農作業安全に関わる研修受講者 100名以上 ・ 農業機械の運転操作技術向上に関わる研修受講者 50名以上	① 有機農業及び先端技術特別講座の実施 ・ 先端技術特別講座の開催 3回 ・ 有機農業等の現地研修の実施 2か所×1回 バスを1台から2台とし、2班体制で2カ所を視察したため、回数を1回とした。 ※専攻科で実施している「アグリビジネス論」により6次産業化の実際を演習 ※研修棟の調理室を食品衛生法に基づく加工室として保険所に申請し、令和2年に認可され加工実習や加工商品の開発、販売演習を実施 ② 農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の実施 ・ 農業機械研修の開催 9回 ・ 農作業安全に関わる研修受講者 133名 ・ 農業機械の運転操作技術向上に関わる研修受講者 47名 (5項目中3項目達成:達成度3)	3	・ 新型コロナウイルス感染症の影響は次年度も継続すると考えられるため、視察の研修先、少人数のグループでの視察で対応する。 ・ 農業機械研修は確実な資格の取得に加え、農作業中の死亡事故ゼロを目指した安全利用の啓発に務める。	・ 6次産業化の実践についての記載なし。 (※参照)